

OMC事務局 〒565-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL0720-50-5781

平成11年8月(1999年) No. 404

OMC映像フェスティバルは 11月28日(日曜)

今年の映像フェスティバルは、大阪市立図書館と大阪アマチュア映像連盟との共催による映像祭が10月30日(土曜)と決定したのを受けて、およそ1ヶ月後の11月28日(日曜)午後といたし、このほど会場の阿倍野市民学習センターの会場を確保しました。したがって準備の都合上、9月中には出品作品の選出をしなければなりません。15本程度を予定しておりますので、各自、自信作を準備していただくようお願いします。今回は第39回のフェスティバルですが、OMC発祥以来60周年ということでもありますので、話題作や秀作を期待したいものです。なにかイベントにふさわしい企画でも考えつかれたらぜひご提案ください。

7月研究会には18名が出席10本の研究作品

7月は特にテーマを絞らず、自由作品を研究作品にお持ちいただきましたが、10本の予想以上の本数が出品され、時間いっぱいの有意義な研究会となりました。なかには例会に出してもよいような完成度の高い作品もありましたが、少しでも皆さんからの助言が欲しいとの熱意の表れかと思えます。今後とも例会とはひと味違った運営と内容を目指したいと思えます。

8月例会と研究会のお知らせ

8月例会は28日(第4土曜日)18時より、阿倍野市民学習センター(あべのベルタ3階)で開催します。今月は**熊野古道撮影会作品の公開審査**を中心に行いますので、一般作品は時間がとれないかも知れませんが、一応持ってきてください。撮影会参加者は是非とも撮影会作品を持ってきて下さい。研究会は和室にて13時30分より開催。那須さん提供テープの編集作品を中心に行います。時間の許す限り一般作品の勉強会も行います。どうぞご持参を。

7月例会のレポート

研究会終了後、1時間の休憩時間をはさんで夜の部の例会へと、昼間から出席された会員さんには、たいへんお疲れだったと思いますが、好きな道だからこそ例会もまた楽しいひと時でした。今月は見学者1名を加えて26名という賑やかさ、作品も15本が出品されて時間一杯の盛会でした。

◆出席者：有村、今井、岩井、石垣、奥、岡本、上総、勝、合原、関、森、安居夫妻、渡辺、華岡、中尾、那須、末岡、増池、前田、松本、森口、森下、宮崎、以上の24名のほかに見学者1名の25名（敬称略）

◆上映作品（今月の記録と講評担当は安居利次世話役）

1. 中央公会堂 安居 利次さん 8分40秒

80年の歴史を誇る大阪の中央公会堂も、よる年波には勝てず、本格的な改修工事に入ることになり、4年間、閉館します。解体工事の前、内部を見せてもらいました。貴賓室や、手動のエレベータなど、時代を感じさせます。作品としては、ローランドV5の使い方のまずさを改善し、導入部に写生している人などを入れ、公会堂に対する市民の愛着をあらわすと全体が生きてくるという指摘がありました。

2. 桜の季節 安居 良枝さん 7分10秒

桜は人生とのかかわりから、いろいろの思いを人々に、与えてきました。王朝人から、特攻隊の人々まで。それは生きる証であったり、散る美学であったりしました。作者にとって桜の季節は人生の決断のときだったようです。体に自信がなくなってくると来年の桜の季節を見る事が出来るか不安なようです。桜に自身の心理描写をかぶせた作品ですが、ちょっとテーマが重過ぎます。いつものユニークな観点から、軽いタッチで描いて欲しいものです。

3. 祈り 渡辺 雄史さん 7分

祈りという内面の思いを、外面のカットの積み重ねで表すことは、たいへん難しいことです。神や仏に向き合ういろいろな人々の、動作や表情で、それを表そうとされています。祈りは内面の問題ですから、内面の表現である表情を主にしたほうが得だと思います。それには司会が言われたように、顔のアップでしょう。真剣な表情の積み重ねが、タイトルの意味を具体的に表現できると思います。後半のおばあちゃんの仕草が面白いとの事でしたが、その説明の挿入部分が見る側に混乱を招きました。時間を半分にして祈りに絞ったほうが、まとまるのではないのでしょうか。

4. 梅雨空の天王寺公園 那須 典彦さん 3分

作者は、天王寺に出たついでに1時間で撮って、1時間で編集したとっておられます。しかし、なかなかどうして器用にまとめられた技量には、感服です。関さんのカットつながりもそうですが、我々のと、どこが違うのでしょうか。よく見てみるとABCのカット3枚がどこかで繋がっています。Aの端の部分がBで中心になりBの遠景に見えるものがCでは主になっているのです。見ている者の無意識の欲望をみたしてくれているのです。作者がそれを意識しないで撮っておられるなら身についた才能というべきでしょう。

5. 梅雨の白川風情 奥 宏さん 5分22秒

後半、白川にかかる石の橋を中心とした、おばあさんと鴨のあたりの情景描写は、風情がありました。白川の水が、当日の豪雨で泥川になっていても、なおかつ風情があるのはカットつながりがスムーズであったからだと思います。前半、何かぎこちない感じを受けたのは、カットに、後半のよ

うな連続性がなかったからではないでしょうか。また前半オーバーラップに少し誤用があったような気がします。筆者もノンリニアを少しかじってみて、オーバーラップがすごく簡単に出来ることからV5の時のような誤用には注意しようと思っているところです。

6. イグアスの滝

上総 修一郎さん

5分16秒

ナイアガラ、アフリカのビクトリアと並んで世界3大瀑布の一つ。ブラジルとアルゼンチンとパラグアイの接点にある幅4.5km、落差70mの規模はナイアガラより大きいと言われています。その大景観を撮られた作品。さすが撮りなれたベテランの腕で見事に表現されています。激流の色が流れ込む土砂のためか濁流になっているのが、余計、瀑布のすごさを強調しているようです。「居ながらにして、イグアスの滝へ行ってみたみたい」と言う声がありました。冒頭に出てきた上流のダムが発電量が、原発18基分というテロップが滝の規模を表す伏線として利っていました。

7. 辺境の地 シッキム

合原 一夫さん

9分40秒

シッキムの地がネパール、ブータン、中国、パングラディッシュにかこまれたインド領であることを始めて知りました。州都ガントクから見るヒマラヤ山系の色彩は、想像を絶するものです。朝焼けのときだけで、すぐに全体が白っぽくなってしまいうらしく、カメラチャンスも貴重な要素の一つとか。作者は、すばらしい景色だけでなくガントクの町にはいり、そこに住む人々の表情をうまく捕らえておられます。独特のナレが見ているものに説得力を持って迫ります。同じインドでありながら、子供たちに物をねだる様子が見えないのでほっとしましたが、地域的に難しいところなので国の援助がかなりあるとか、世界情勢の一端を垣間見たような気がしました。

8. 大阪城の石垣

宮崎 紀代子さん

2分

研究会用に、関さんが撮られた83カットの中から編集するという課題作品です。関さん曰く「石垣ばかり、どおするんかいな、と思っていたら最後の盛り上がりでOBP(对象的に)を持ってきはって、うまいことまとめておられます。」司会が「いいカットが多いので、番号入っていなかったらいろんな所に使えるのに。」と本人の独り言を紹介されました。「蛸石は石垣か、」など楽しい議論も花咲きました。

9. ビデオ探訪大阪港

有村 博さん

9分45秒

大観覧車に乗って眼下に広がる大阪港を眺めながら、当所で行われた帆船パレードを友人のヘリコプターから撮った回想画面に移ります。昭和58年のこと。南港の埋め立てが昭和33年、以来北港から南港まで、いろいろな施設が出来ました。それを手際よく紹介されています。平成8年、偶然、遭遇したパナマ国籍の船舶火災の様子をうまく入れられて、探訪ビデオの中に、盛り上がりを作っておられます。さらに「ナレに重大ミスがあるからそれを探し出してくれ。」最初に言われるとみんな普通より一所懸命に見ることになります。答えは21世紀と20世紀の”単なる”まちがいで気づかなかった人も多くいました。

10. 湖北夏紀行

森口 吉正さん

6分50秒

作者はこのような情緒的な風景をテーマにした作品がお好きなようで、うまく描いておられます。高月川の周辺は清い水を大事にしてきました。目の前にある広大な琵琶湖は水運には利用できても、稲作には使えません。余計水に対する信仰心が独特の情緒をかもし出しているのかもしれない。琵琶湖北進説があります。侵食の進んだ最湖北の景色は木の本あたりの静かな湖北とは、またちがう雰囲気です。同じ湖北でもちがう情景を入れたらどうゆうことになるのか、作者に一度挑戦して欲しいと、ふと思いました。

11. アルハンブラの思い出**勝 成忠さん****2分30秒**

「アルハンブラ宮殿の思い出」の曲はみんなが知っているメロデーです。グラナダの丘がどこにあるかも知らない筆者などは、哀愁をおびたメロディーにのせてイスラム建築をうまく並べられたら、それはそれとして納得したと思います。ただ円形劇場での闘牛のシーンは始めのワンシーンだけに願いたいものです。ジプシーの踊りはよかったです。現地に行かれた関さんの話では、本当のアルハンブラでのカットはジプシーと最後の宮殿の夜景だけだとか。よく知っている人がいるとやりにくいですね。それと折角のノンリニア、最後の音処理、手を抜かないでお願いしたいです。

12. 冬・高野山**前田 茂夫さん****9分10秒**

ほとんど全員の大疑問、前回との比較で手直しされた今回の分が期待したほど盛り上がらなかった理由は何か。(ごめんなさい前田さん) 筆者は前回と今回のダビングをもっていたので何回も見なおし比較検討しました。正直なところ拙い筆者の私見では、水行のシーンが前回始めてで、あまりにも、インパクトが強すぎたため、「これで終わったら」となったのだと思います。前回のラストシーンも余韻があってよかったのです。ノンナレのほうがいいとかいろいろ意見が出ましたが、みんながそれほど熱心にこの作品のことを取り上げるのはそれだけの求心力があったと言うべきでしょう。もう少し言えば、ズームが多すぎるとか、固定ショットをもう少しふやしたほうが全体に落ち着くとか普通では気が付かないところまで見えてきたりします。有名税とと思ってください。

13. 高野山**増池 茂さん****8分40秒**

おちついた音楽にぴったりのカットつなぎで最近めきめき腕をあげられたと思います。ただ司会もいっておられた集合写真は無い方がいいです。それと最後の鐘つきのシーンですが、棧の間から坊さんの顔がみえるところで終わったらどうでしょう。ついでに音楽が変わったあとも全部なし。すっきりして見終わったあとに余韻を残せます。撮影会に行ったり高野山のことをよく知っている人はいいのですが、第三者にはテロップか簡単なナレがあったほうが親切と思うのは、ナレ主義者である筆者の思いこみかも知れないと自分でも少々自信がありません。

14. 島めぐり**末岡 健司さん****7分**

本州と四国を結ぶ三番目のしまなみ街道のすぐ近く瀬戸内海に浮かぶ大崎下島、ここに御手洗(みたらい)と言う町があります。昔、瀬戸内を航海する船乗りたちの歓楽地だったそうです。残っているのは、くねくねと曲がった小道と遊女の名を記した墓石のみ。もう少し資料が欲しかったです。瀬戸内の港は大抵「廓」があり室津のお七清十郎のような物語も残っています。そういうのがあれば話も膨らんだでしょう。瀬戸の花嫁以下ちょっとしんどい展開になりました。こういうシナリオはやっぱり豊富な資料が大事みたいですね。

15. 晩秋の服部緑地公園**石垣 禎章さん****12分**

今年の新年宴会でお目にかかったような記憶があります。しかしOMCではかなりの先輩だと思えます。久しぶりに御見えになったと司会の話です。作品はなかなかしっかりと、お撮りになっています。緑地公園の保存家屋の室内の様子は撮りにくいものです。外光線とのバランスはかなり手馴れたものとお見受けしました。先輩であることを抜きにしてあえていえば、現在のOMCの雰囲気からすれば、ノンナレで12分はちょっとしんどいようです。基本技術はしっかりされているのですから、これからの作品に期待します。